

中・長期開門調査が困難な理由

1 海域の環境と漁業への影響

- ・ 大量の海水の出入りによる排水門の近傍の速い流れやそれに起因する濁りの発生等により、海域の漁場環境や漁船航行等漁業への影響が生じておそれがある。
- ・ 調整池内の大量の淡水生物が死滅し、一時的に、調整池・海域とも水質悪化や悪臭発生などが生じる。
- ・ 以上の影響を防止するための対策には多くの費用と長い歳月を要し、可能な限りの対策を行ったとしても、予期し得ない被害が発生するおそれがある。

2 背後地等への影響

- ・ 開門により調整池水位に干満が生じるため、潮受堤防の防災機能の維持が困難となり、洪水時の湛水被害や常時の排水不良が生じる。
- ・ 干拓農地ではかんがい用水がなくなり、また、調査が長期に及ぶ場合、潮遊池を水源としている背後地ではかんがい用水が不足する。
- ・ 調整池の塩水化により、旧干拓地の水源となっている既設堤防の背後にある潮遊池等への塩水の侵入や潮風害による背後地農地への塩害が生じるおそれがある。

3 排水門等施設の安全性への懸念

- ・ 排水門の近傍で生じる速い流れによって、排水門基礎の洗掘が起こり、排水門の安全性に影響を及ぼすおそれがある。

4 調査に長い年月を必要とし、その成果は明らかではないこと

- ・ 実際の海域では、気象、海象等の多くの要因が複雑に影響することから開門による海域への影響のみを抽出することは困難である。
- ・ 地形条件、境界条件が潮受堤防建設前とは全く異なり、新たな環境の場での調査となることから、潮受堤防が海域の環境に及ぼした影響を見ることができない。
- ・ 水位制限を行っての海水導入では、短期開門調査と同程度の成果しか期待できない。